

第12期 第4回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和2年(2020年)11月30日(月) 午後2時00分～午後4時30分
場 所 国立市役所3階 第1会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、高麗委員、田中委員、十松委員、速水委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、中村ごみ減量課長、豊島清掃係長、河内清掃係主査、安波環境センター所長、岡田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2019(令和元)年度実績)の行政による評価の(4)中間処理について事務局から説明した。

【山谷会長】①適正な中間処理と安定的な管理運営について、ご意見をお願いします。

【楠田委員】目標が稼働日数の維持となっていますが、ごみの量が少なければ稼働日数は少ないほうがよいのではないのでしょうか。

【事務局】稼働日数が多いということは、安定して稼働できているということで評価しているのですが、目標については検討します。

【隈井委員】クリーンセンター多摩川が稼働していない日は何をしているのでしょうか。それがわからないと、稼働日数が適正なのかわからないと思います。

【山谷会長】点検でしょうか。

【事務局】そうですね。

【山崎副会長】焼却炉というのはずっと動かしているのが一番熱効率がよいとはよく聞きますよね。

【楠田委員】ただ、周辺の住民の視点に立つと、余計な排ガスが出ないほうがよいですよ。

【山谷会長】そうですね。いろいろな指標を見てみる必要がありますよね。例えば補助燃料を使った日数や補助燃料の量もあるとよいですよ。このまとめはどうでしょうか。

【楠田委員】稼働日数の維持や発電量の維持という目標に対してA評価というのはわかるのですが、目標の設定の仕方は検討していただきたいということでしょうか。

【山谷会長】そうですね。引き続き安定的な管理運営に努めていただきたいということと、評価指標については工夫を凝らしていく必要があるというまとめをお願いします。

【山谷会長】②再資源化の推進について、ご意見をお願いします。

【内海委員】資源物というのは具体的に何があるのでしょうか。

【山谷会長】びん、かん、ペットボトル、容器包装プラスチックと不燃ごみから選別したものです。

【内海委員】スーパーで回収しているトレイも、この資源化量に入るのでしょうか。

【事務局】入らないです。市では関わっていません。

【内海委員】 そうすると、例えばトレーがスーパーの回収に出されて、資源化量が減ることは望ましいのでしょうか。

【山谷会長】 そうですね。資源化率とか資源化量を一般廃棄物処理基本計画で目標に設定していることが多いのですが、ちょっと考え直さなければいけない時期に来ているかと思います。

【山崎副会長】 総資源化率以外のものはどうなっているのでしょうか。

【事務局】 埋立はしていないので、焼却をして減量しています。

【山谷会長】 ここの評価はどうでしょうか。

【隈井委員】 引き続き総資源化率の向上と、総資源化量の減少に努めていただきたいということになるのでしょうか。

【事務局】 リデュースして資源化量が減るのはよいのですが、資源化できるものを可燃ごみとかに出されて減るのは困るので、数字だけでは何とも言えないです。

【隈井委員】 そうすると、新たな再資源化についての調査研究の成果が出れば、資源化率は上がるはずですよ。

【事務局】 そうですね。

【山崎副会長】 他の自治体では、ユニ・チャームとかが開発したシステムで、おむつをリサイクルしているところもありますよね。

【事務局】 国では容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括回収という話も出ています。

【山谷会長】 そうですね。紙おむつの資源化、プラスチックの一括収集などを含めて、新たな再資源化の調査研究を進めてほしいということにしましょう。

【山谷会長】 ③中間処理施設の延命化について、ご意見をお願いします。

【内海委員】 クリーンセンター多摩川は令和8年度までに延命化を図っていくとのことですが、事故とかでどうしても動かなくなってしまうときはどうするのでしょうか

【山谷会長】 他の自治体にお願いするしかないですかね。

【楠田委員】 小金井市のごみの処理は終わりましたが、焼却炉は3基とも延命化をするのでしょうか。

【事務局】 細かいところまでは把握していないのですが、災害時の廃棄物の処理をする可能性もあるので、減らすことはないかと思います。

【楠田委員】 環境センターはクリーンセンター多摩川より10年ぐらい古いですが、大丈夫なのでしょうか。

【事務局】 公共施設等総合管理計画上は、耐用年数はあと約30年弱です。その前段で大規模改修をするのですが、細かい計画はまだ組んでいません。建物は頑丈にできているのですが、設備はやはり経年劣化していきますので、随時修繕していくことになると思います。

【楠田委員】 計画を作ってやっていただきたいと思います。

【山谷会長】 ここは計画的に延命化の措置を行ってほしいということですね。

【山谷会長】 ④処理困難物、感染性廃棄物の適正処理の促進について、ご意見をお願いします。

リチウムイオン電池は今一番問題になっているところですが、クリーンセンター多摩川の事故件数が急に増えているのはなぜでしょうか。

【事務局】 クリーンセンター多摩川では、稲城市と狛江市の不燃ごみや粗大ごみを処理しているので

すが、その中に入ってしまったようです。

【十松委員】計画内容の「処理ルートや引取先の周知などの徹底」をすると、事故がなくなるであろうということで、実績に事故の件数を挙げているのかと思うのですが、行政による評価が事故のことにしか言及されていないので、計画内容と合っていないような気がしたのですがいかがでしょうか。

【事務局】そうですね。整理します。

【隈井委員】国立市では起きてない、国立市のごみが原因ではないとのことですが、30件事故があれば1件は大事故が起きるとも言われているので、情報収集や改善策の提案はできないのでしょうか。

【内海委員】稲城市や狛江市に言うことは難しいのでしょうか。

【十松委員】同じ運命共同体なので。

【事務局】多摩川衛生組合から稲城市と狛江市に文書は送っているのですが、そこを飛び越えて国立市からというのは難しいでしょうか。ごみの中に危ない物が混ざっていないかの手選別を少し始めたとは聞いていますが、それでも今年度も結構あるようです。

【山谷会長】販売店で回収しているところもあると思うのですが、あまり聞かないですね。

【事務局】小型充電式電池は業界団体が回収していますが、あまり浸透していないかもしれません。

【山崎副会長】ガスボンベとかはどうでしょうか。

【事務局】最近はかなり減っていると思います。

【山谷会長】神戸市では会社の大小問わず、事業系のごみは有料の指定袋で出すことになっているのですが、今年度から危険物用の新しい袋を作りました。そこまでしなければならなくなっているということは大きな問題ですね。

国立市でも、ぜひともこの処理困難物、危険物の排出について、一段と排出指導、啓発を強化していただきたいということをお願いします。

【山谷会長】⑤非常時における相互支援について、ご意見をお願いします。

【山崎副会長】近隣の自治体等との連携関係はどこまで進んでいるのでしょうか。

【事務局】多摩地域と一部事務組合で、災害時に相互支援するという協定を締結しているのと、多摩川衛生組合と構成市で、災害時に相互支援するという協定を締結しています。都外については現状では話はしておらず、災害廃棄物処理計画を策定したら話をしていければと考えています。

【山谷会長】災害廃棄物処理計画に基づき、盤石な相互支援体制の構築に努めていただきたいということをお願いします。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2019（令和元）年度実績）の行政による評価の（5）最終処分について事務局から説明した。

【山谷会長】ご意見をお願いします。

エコセメントは公共工事に使っているということですが、もっと民間で使えないのでしょうか。

【十松委員】エコセメントの弱点は何でしょうか。

【山谷会長】ダイオキシンが閉じ込められているおそれがあるということだと思います。

【山崎副会長】エコセメント製品はかなり余っているのでしょうか。

【事務局】量はわからないのですが、足りないとか、余っているとは聞いたことがないです。

【山谷会長】ここは市としてエコセメントの利用の拡大に努めていただきたいということしかないですよね。ごみが減れば、焼却残灰排出量は当然減るわけなので。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2019（令和元）年度実績）の行政による評価の（6）制度、施策の充実等について事務局から説明した。

【山谷会長】①市民・事業者との協働の推進について、ご意見をお願いします。

廃棄物減量等推進委員に町内のごみ集積所を回っていただくようなことはやっているのでしょうか。

【事務局】そこまではやってもらっていません。

【山谷会長】事業系の廃棄物等管理責任者の講習とかはやっているのでしょうか。

【事務局】今はやっていません。

【山谷会長】廃棄物減量等推進委員については、何かイベントのときにちょっと手伝っていただくこととかが中心になるのでしょうか。

【事務局】そうですね。

【山岸委員】ごみゼロは毎月1回やっているのでしょうか。

【事務局】年2回やっています。

【山岸委員】近所のごみゼロは大学生や中学生もたくさんいて、結構華やかな感じでした。たまにやっていると、いつもは関心がなかった人も参加しやすいかと思いました。1人でやることは難しくても、みんなで集まると意外と色々なごみが落ちていて啓発になりますよね。

【山谷会長】職員の人数も限られている中で、廃棄物減量等推進委員に手伝っていただくということは、非常に重要だと思います。また、事業系のごみ減量については、廃棄物等管理責任者とコミュニケーションを密にして、引き続き積極的に取り組んでいただきたいということでお願いします。

【山谷会長】②啓発の推進について、ご意見をお願いします。

市とジモティーが協定を結んだということが、最近ニュースで載っていました。

【隈井委員】前期の審議会までは大学のサークルの方が委員にいましたが、大学のサークルとの連携は続いているのでしょうか。また、大学生向けの啓発活動が昨年度はゼロ件ということですが、その後はどうなっているのでしょうか。

【事務局】大学生向けの啓発活動は、東京女子体育大学のオリエンテーションに参加して、説明させていただいていたのですが、昨年度は忘れてしまいました。今年もできていないところになります。大学のサークルとのやり取りもかなり希薄になってしまっています。

【山岸委員】行政による評価の、ツイッターやアプリの活用というのは具体的にどのようなことを考えているのでしょうか。

【事務局】今は広報の手段が市報とホームページになるのですが、市でツイッターやLINEのアカウントを持っているので、そういったものを使うことを考えています。アプリというのは、他の市だどごみの分別とかごみ出しの日とかが見られる携帯電話のアプリがあり、そういったものを意図しています。

【山岸委員】ジモティーと連携したというのは、地元同士で物を受渡しできるようになったということなののでしょうか。

【事務局】協定の内容としては、ジモティーでは、インターネット上で要らないものを譲ったりすることができるということを、あくまで紹介するということになっています。これからホームページやカレンダーに載せて、そちらを使っていただくという流れをつくっていただければと思います。

【隈井委員】留学生や学生は市民と結構関わりを持っているので、そこをうまく使って、啓発活動につなげていただくとよいかと思います。

【山崎副会長】やはり市報、ホームページは、市民は見えていないと思います。アプリやツイッターは一回構築すれば結構使いやすく、他の市に住んでいる学生からも、今日は何のごみの日かとか、それに関するアドバイスがあると使いやすいとは聞いたことがあります。

ごみを減量化したほうが良いということすらも、意識をしたことがない市民がほとんどだと思います。啓発はやり続けると全然浸透していかないので、何とか負担を増やさない範囲で活用してもらえよう、またお願いしたいと思います。

【山岸委員】紙で話をされてもなかなか分かりにくいので、例えば生ごみ処理機で生ごみが1週間後になくなりましたというのを写真とかでつぶやいて、事実として見せられると、私にもできるかもしれないと、自分事に落とし込めるかと思いました。

【山崎副会長】ゼミの学生と、どうやったらごみが減らせるかという話を時々するのですが、やはりモチベーションになるきっかけがないと僕たちは動かないと言います。何かのきっかけづくりというのを頑張っていたきたいと思います。

【事務局】ごみの減量も危険物のごみに出さないでということも、とにかく何とかして知っていただくということが本当に大事なところになるので、何かしら工夫していきたいと思います。

【山谷会長】まとめると、ごみ減量の取組のきっかけになるよう、ツイッターも含め、発信力の強いツールを使って啓発に注力していただきたいということでお願いします。

【山谷会長】③環境学習について、ご意見をお願いします。

わくわく塾の実施状況を見ると、要望がなかったので1回も開かれていないということです。

【十松委員】わくわく塾のメニューを見てみると、ごみの現状、家庭でできるエコ、ミニ・キエーロの3つで、長い間変わっていないかと思います。海洋ごみ、マイクロプラスチック、フードロスなどは今すぐ話題のテーマですが、外部から講師を呼んでくるということは難しいのでしょうか。

【事務局】そうですね。

【十松委員】そうすると、まずはメニューの洗い直しと、それから職員が勉強するしかないですかね。あるいは審議会のメンバーを利用してもよいかもしれません。

【事務局】今は集まるというのがなかなか難しいので、あくまで私の頭の中で考えているくらいなのですが、何か動画を作って、ホームページに上げたりできればとは考えています。

【内海委員】このご時世なのでちょっとわくわく塾はお休みして、ツイッターに力を入れたり、動画の構想を練る期間を作ったりしてもよいのではないのでしょうか。

【隈井委員】児童青少年課では昔、中学生と一緒に動画を作っていたと思います。結構その辺が得意な子もいるので、巻き込んでやったら労力をかけずにできるかもしれません。

【山谷会長】まとめとしては、魅力的な、関心を持ってもらえるような企画を検討していただきたいということでもよろしいでしょうか。

【山谷会長】④拡大生産者責任の明確化について、ご意見をお願いします。

【山崎副会長】事業者との定期的な情報交換関係の構築については、具体的にどのようなことをする予定なのでしょうか。

【事務局】他の自治体では、毎年現状を調査しに行くという関係を築いた中で、定期的な連絡会というところまで発展している例があったので、そこまで行けたらとは考えています。

【山谷会長】店舗でどの程度回収しているかという情報は自治体のほうでは持っていないですね。

【事務局】そうですね。増えたと聞くことが多いのですが、具体的な量までは把握していません。

【内海委員】困っていることとかの情報交換をしてみたいでしょうか。

【山谷会長】日々消費者と接している事業者から情報をいただくことは重要なことだと思います。それに基づいて、資源回収の推進に役立てていくということだと思います。

【田中委員】今は6年くらいできていないのですが、消費者団体連絡会では、三者懇談会というのを、事業者、消費者団体、市でやっていました。そのときに、やはりスーパーは消費者のほうになかなか言えないが、こういう会があると逆に要望が出せるということもありましたので、意見交流は必要かと思っています。

【山谷会長】今の発言がこの会議の結論でしょうか。市内の事業者と連携を図りながら、拡大生産者責任の枠組みの構築を進めていただきたいということですね。

【山谷会長】⑤不法投棄対策について、ご意見をお願いします。

【内海委員】国立で不法投棄が多いところはどの辺りなのでしょうか。

【事務局】中央道の高架下とかでしょうか。たまに数十キロ単位で捨てられていることがあります。

【山谷会長】歩道橋の裏側とか、死角になるところですね。それから道路の植え込みも捨てられますよね。要するに見られているとなかなか不法投棄できないということが重要で、看板とかで不法投棄の防止策をきちんと講じる必要がありますよね。

【十松委員】「不法投棄禁止」という看板ではなくて、「あなたは見られています」という看板の方がよいのではないのでしょうか。

【内海委員】雰囲気暗いと捨てたくなってしまうということはあると思うので、ちょっとでもなくすのも手かと思います。すごく暗くて落書きが多い地下の歩道がある大学がペイントしたら、落書きがなくなったということがありました。

【山谷会長】そうですね。不法投棄をさせない環境づくりが一番の決め手ですね。そして不法投棄を発見したときは迅速に対応するということですね。その土地の所有者に管理責任があるので、お話をしたらなる不法投棄が起こらないよう、きちんと管理していただくということですね。

【山谷会長】⑥持ち去り対策について、ご意見をお願いします。

【十松委員】計画内容は禁止条例などの制定についての検討となっていて、実績は2017年1月1日から資源物持ち去り禁止を規定した条例を施行となっていますが、矛盾はないのでしょうか。

【事務局】計画内容はそのまま載せているのですが、条例はもうできていて、改正するというのもないので、整理します。

【山谷会長】持ち去りの件数が減った結果、警告書交付とかもゼロ件になっているのでしょうか。

【事務局】結局同じ人が何回もやっていて、私どもが見ている目の前ではやりませんし、仮にその人

を取り締まっても、また別の人が来ると思います。

主に新聞紙が狙われるのですが、新聞紙は販売店でも回収しているので、なるべくそちらに回していただいて、取るものをなくしたほうがよいとは考えています。

【高麗委員】確かに古紙の価格が下がれば、アパッチと言われる拾い屋たちも減ってくるとは思いますが。私どもの会社でも毎週水曜日に動いているのですが、やはり最近は全然いないとも聞きます。

しかし、持ち去り業者がいなくなるということもないと思います。遠くから来て持っていくコストを考えると今はやらないほうがよいということで減っているのではないかと思います。

【山谷会長】回収事業者の協力も得て、連携しながら、引き続き資源物の持ち去り防止に努めていただきたいということでしょうか。

【山谷会長】⑦家庭ごみの有料化について、ご意見をお願いします。

【隈井委員】行政による評価の「住民サービスの向上」とはごみに関係したことだとは思いますが、読む人によっては、ごみ袋の値段を下げるべきなのではないかという話になりかねないかと思いました。この住民サービスとは具体的にどういったことなのでしょう。

【事務局】戸別収集やごみ出しが難しい方の支援をイメージしているのですが、文言は整理します。

【山崎副会長】収入額はほとんど一定ですね。

【山谷会長】1か月にすると200円程度なので、それほど大きな金額ではないでしょうか。

【隈井委員】有料化についてのクレームはあまり来ていないのでしょうか。

【事務局】そうですね。目立ったことは聞かないですね。

【山谷会長】有料化を実施して、市民の理解も深まってきたということで、引き続き手数料収入の使途の明確化も含め、制度の見える化に努めてほしいというところでまとめておきましょうか。

2. 国立市災害廃棄物処理計画（素案）について

資料に基づき、国立災害廃棄物処理計画（素案）の主な修正点について説明した。

【山谷会長】ご意見をお願いします。

仮置場の候補になる公園を具体的に挙げている計画は初めて見ましたが、よいことだと思います。みんながここしかないと思っていても出しませんよね。やはり周辺の住民には全くメリットがありません。

【事務局】目安として公園名を挙げていますが、仮設の応急住宅や自衛隊の野営地の候補地にもなっているため、実際に使えるかどうかは不透明なので、この計画を基に民間の事業者の土地や学校の土地を使えるのかも話していきたいと考えています。

【隈井委員】非日常のことなのでイメージが湧きにくいですが、そういう意味では、仮置場の候補になる公園を書いたことはよかったのではないのでしょうか。

3. その他

(1) 次回以降の日程について

第5回は予定どおり令和3年1月25日（月）の14時から行うこととし、答申は令和3年3月19日（金）の13時30分から行うことで調整することとした。

— 了 —